

# 令和元年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立貴志川高等学校 学校長名： 山本 明広

めざす学校像 育てたい生徒像	「人間として生きる力を身につけた、地域と社会に役立つ生徒を育てる。」 自己肯定感を高め、自らの手で未来を切り拓く生徒を育て教育実践を図り、特色や魅力のある学校（行きたい学校）及び地域や保護者から信頼される学校（行かせたい学校）を目指す。
本年度の重点目標	1 基本的な生活習慣の確立、自らを律する態度の涵養
(学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	2 基礎学力の定着に向けた学習指導の徹底及び伸び度を実感させる授業づくり 通級制度の導入のための体制づくり キャリア教育の充実と確かな職業観・就職観の涵養、進学・就職指導の充実
	3 部活動、生徒会活動、ボランティア活動の充実、地域との連携

中期的な目標	1 基本的な生活習慣を確立し、社会人としての基礎を身につけさせる取組 2 授業を大切に、魅力のある授業・わかる授業・力のつく授業自ら伸びを実感できる授業づくり、通級制度の確立 3 キャリア教育の充実を図り、進路保障に向けた取組 4 部活動・生徒会活動・ボランティア活動等、生徒の自主的で活発な活動 5 特色ある学校づくり、地域から信頼される学校づくり 6 高大接続・新学習指導要領の研究とプランニング
学校評価の結果と改善方策の公表の方法	本校教職員に共通理解を図るとともに、きのくにコミュニティスクールにおける学校運営協議会において、その結果を分析・改善策に関する意見交換する。さらに、本校HPにて公表し、開かれた学校づくりに資する。

達成度	A	十分に達成した。(80%以上)
	B	概ね達成した。(60%以上)
	C	あまり十分でない。(40%以上)
	D	不十分である。(40%未満)

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。  
4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価	
重 点 目 標					令 和 2 年 2 月 1 3 日 実 施	
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	評価項目の達成状況	次年度への課題と改善方策
1	基本的な生活習慣が確立できていない生徒および規範意識が希薄な生徒が多い中、積極的な生徒指導に努め、後追いの(対処的)な生徒指導にならないように努める。 また、教職員が一丸となって組織的に生徒指導に取り組む姿勢が見られるようになった。 しかし、生徒実態把握(アセスメント)力が弱く、生徒一人一人の心身の発達に心ざされてない。	情報が共有され組織的に生徒指導にあたれているか。 積極的な生徒指導の観点で取り組んでいるか。 SC、SSW、関係機関や保護者等との連携ができていないか。 正確に生徒をアセスメントできているか。 問題行動が起こったときの初期対応は適切か。	身だしなみ指導や携帯電話等の指導の徹底 アセンブリー等を充実させ問題行動の未然防止を図る 登下校時指導や日々の声掛けによる生徒理解 情報を共有し、正確に生徒をアセスメントする 交通安全指導の徹底、自転車整備点検の徹底	保護者召還注意指導を繰り返す生徒 0名 同じ問題行動を繰り返す生徒 0名 挨拶の返答率90% 家庭訪問、中学校訪問、ケース会議の開催 交通安全教室、自転車指導・点検、二輪車指導等により、交通事故0件	積極的な生徒指導に係る意識が教職員に浸透するとともに、生徒指導部が中心となり全教職員の粘り強い指導のおかげで、生徒指導措置件数及び延べ人数が減少した。 (H30・48件、R1・26件)しかし、同じ生徒が問題行動を繰り返す事例も多い。 校門指導ではかなりの生徒が挨拶ができています。 生徒指導における正確なアセスメントに心がけ、情報がより共有化できた。	OSNSの書き込み等情報モラル教育の更なる充実 ○教職員の共通理解の下、正確なアセスメントに基づき、一致した積極的な生徒指導 ○問題行動を繰り返す生徒に対する指導の工夫 ○保護者・地域・関係機関やSC、SSW等との連携の深化 ○交通安全マナー、モラルに係る意識の醸成 ○生徒自らの「気付き」を大切に生徒の内面からの変容を目指した粘り強い指導 ○発達段階に応じた指導
2	基礎学力が身につけていない生徒、学習習慣が確立されていない生徒、学習障害がある(疑われる)生徒が少なからず在籍している一方、国公立大学進学希望する生徒もいる。非常に学力差が大きい現状の中、習熟度別授業やコース制で対応しているが、学力上位層に対しては下位層に対して十分な対応ができていない。	授業規律が確立されているか。 「学び直し」「特別支援教育」の視点を持つ授業を行っているか。 アクティブなわかりやすい授業づくりを心がけているか。 進路意識を高め学習に対する生徒のモチベーションを高めているか。	始業ベルと同時に授業を開始、授業規律の確立 「学び直し」「特別支援教育」の視点を含むわかりやすい、伸びを実感させる授業づくり 通級制度の導入 進路説明会や進路LHRのきめ細かい計画、大学見学会 学力上位者に対し、モチベーションを高め、粘り強い学習指導と資料提供や補習等を実施し、進路希望実現を図る。	ベル着の完全実施、課題をできるだけ少なくする。 全員の教科修得、追認合格、進級、卒業を目指す。(卒業・進級率を98%) H29(91.9%) H30(90.5%) 校内の組織編成と運営 年間計画どおりに実施 大学見学会参加者30名 学校斡旋就職希望者全員の就職内定率100% 県内大学(4年制)合格者 10名	「学び直し」「特別支援教育」の視点を含む教育実践のためか、生徒による授業評価において、ほとんどの項目が昨年度と比べ上昇した。 中途退学者については、依然として多く、様々な要因が考えられるが、本校の最重要課題の1つである。また、通級(3名)も実施し教育効果を得た感もある。 進路に関しては、JSTの配置もあり、就職実績は大幅に改善された。(希望したもので、未定者2名現在も指導中)進学についても県内進学者が若干であるが増加した。	○「学び直し」「特別支援教育」の視点を含む教育実践力の強化 ○「中途退学者」問題に関する教職員の共通理解及び組織的な対応 ○自己実現を図る進路指導における取組の工夫・充実 ○発達障害や愛着障害等に関する正しい理解とその特性に応じた的確な指導(通級) ○今年度厳しくなると予想される就職指導について、ハローワーク等関係機関との連携の強化し進路実現を図る。 ○JSTのノウハウを進路指導に活かす工夫
3	部活動・生徒会活動・ボランティア活動等の生徒の自主活動を奨励し、高校生防災ボランティアスクールを一層充実させる等、地域と連携し、地域に開かれた信頼される学校を目指している。	部活動・ボランティア活動への参加率を維持向上できるか。 ボランティア活動をさらに地域に根付いたものにしていくか。	部活動への積極的な参加 ボランティア活動へのさらなる参加 エコキャップ収集の継続 貴志川線・平池に関わる地域活動への参加 「和歌山らしい学び」を推進	部加入率60%以上 ボランティア活動への参加者200名以上 年間70万個 地域活動に生徒・教員の参加延べ70名 外部講師を招いての講演	アーチェリー部がインターハイ及び選抜大会に出場。柔道部、ハンドボール部等が近畿大会出場。募金活動、ボランティア活動についても生徒会を中心に活発であるが、部加入率40%の達成はできていない。 防災スクールについては、危機管理意識が学習できる地域に繋がった取組となった。	○部活動禁止期間による活動自粛で、様々な問題を解決し安心して部活動に励める環境作りを進める。 ○部活動への積極的な参加意欲の醸成で学校の活性化 ○生徒一人一人が自己肯定感が持てる学校行事の工夫 ○他団体との連携を深めたボランティア活動の充実 ○防災スクールの充実・発展

学校関係者からの意見・要望・評価等	<p>学校評価 1 調査期間 令和元年12月～令和2年1月 2 調査対象・人数・方式 教職員 無記名 アンケート方式 生徒 記名 アンケート方式 保護者 記名 アンケート方式</p> <p>平成29年度、30年度、令和元年度と比較すると、全体的にほとんどの項目が改善傾向にある。(そう思う、ややそう思うという肯定的な回答がより増加傾向にある。) 保護者評価については、過去数年で、ほとんどすべての項目において数%～20%のプラス傾向で推移してきているが昨年度とほぼ同等の評価であるといえる。 生徒評価についても過去数年で、ほとんどの項目において数%～20%のプラス傾向で推移しており昨年度とほぼ同じ評価であるといえる。ただ、環境美化・施設・設備に関してはプラス傾向がみられた。 教員の評価については、特徴的なところでは特色化・魅力化という項目においてマイナス傾向がみられ、ICT活用に関してはプラスの傾向がみられる。</p> <p>調査結果や頂いた意見を真摯に受け止めるとともにきちんと精査し、それぞれの項目に関してより効果的な結果が得られるような対策を講じていく。また、保護者との連絡をより密にし、学校側の意図が十分に伝わるよう努める。 さらに、魅力ある・特色ある学校作りのため、教職員の共通理解を深め、「学び直し」を掲げた指導を心がけるように努める。</p>
-------------------	---